

第4回スマートシティガイドブック検討会 議事概要

日時：令和3年3月29日（月）14:00～16:00

（Web開催）

事務局から資料に基づき発表がなされた後、委員間において以下の意見交換がなされた。

意見交換

（ガイドブックに記載の内容について）

- ・ P7 の下の星印の最初の文章の主語を明確にしたほうがよい。
- ・ P8 のスマートローカルに身の丈に合ったスマート化ということがあるが、身の丈という修飾詞だけだと「規模が小さい、その小ささにあった」というふうに読めてしまう。身の丈という概念が少し規模と効率効果というニュアンスに少し寄っているため、「地域の個性、多様性を生かしたスマート化」という表現にしてはどうか。
- ・ P10 のスマートシティの効果については、基本理念を踏まえると、持続的な都市経営・都市経済の実現と、安全で質の高い市民生活・都市活動の実現を逆転させたほうがよい。また、の「持続的な都市経営・都市経済の実現」の例示を見ると、サービスの創出やイノベーションといった、サステナビリティだけではなく、クリエイティビティのようなことに言及されている。そのため、ここは「経営、持続的な」という修飾だけではなく、「持続的かつ創造的な」というニュアンスも含まれていた方がよい。
- ・ P10 の定義と効果については、「インクルージョン・インクルーシブネス」ということについても書いたほうがよい。
- ・ 最近の流れは世界的に言うところ「グリーン×テクノロジー」であるので、カーボンニュートラルリティやグリーンテックに関する事例をもう少し増やせないか。国内の事例がなければ、海外事例でもよい。
- ・ P18 の全体の見取り図は分かりやすいが、必ずしもこの通りにやらなければいけないというものでない。手順についてはフレキシビリティがあることを言及したほうがよい。
- ・ P18 の全体見取り図について、サイロ型に見えてしまう可能性がある。それぞれが連動していることが分かるように矢印を入れるなど、工夫をしてほしい。
- ・ P20 のスマートシティの類型はよいが、都市の規模や立地など、地域の状況に応じていろいろなものがあるはず。ガイドブックを見ながら自身の地域のあり方を考えましょうという趣旨だと思うので、いろいろなものがあるというニュアンスを出したほうがよい。
- ・ 資金的持続性の確保のところ、民間資金に中心になってほしいという意向は理解できるが、資金的持続性が確保できない段階で、いきなり民間主導というのも難しい。自治体もお金がなくて困っているため、安易に民間資金に頼ってしまわないように、書き方には留意した方がよい。
- ・ 都市 OS 自体を端的に説明することは必要ないか。OS といった場合、普通、入力装置があっ

て、出力装置があって、演算機能があって、ストレージがあってというような機能構成を全体としてつかさどる、そういうシステムというイメージがあるが、ここでは少し一般的な OS のイメージと少し違うニュアンスがあると受け止めた。

- ・用語集 P2 に都市 OS の定義が書いてあるので、内容を本文に入れたらどうかと考える。合わせて都市 OS の定義について、「都市 OS (データ連携基盤)」となっていて、ほぼイコールのように読めるが、都市 OS は用語集の最初のボツにあるような、共通的に活用される機能が集約されているものであり、データ連携は重要な機能であるものの、それ以外の通信ネットワーク等も含んでいるので、「データ連携基盤等」としたほうがよい。
- ・P88 の「終わりに」について、スマートシティに取り組む心得として、気持ちが入った文章となっていてよい。追加するとすれば、スマートシティは 10 ~ 20 年長く続けることが最も重要だと思う。その点では、失敗は大事なもののトラウマになってしまうこともあるので、あまり無理しないということも重要であるので、そういったニュアンスもあるとよい。合わせて、収益性を追求しすぎること、極端な計画になってしまうのもよくないので、アジャイルにやっていくことにも触れてほしい。
- ・P89 には、国が色々な事業を使って支援をしていくということが紹介されているが、このガイドブックに沿った地方自治体の取り組みは、どのような形でサポートされるのかが分かりづらいため、どのような支援を受けられるのかも分かるとよい。また、それぞれの窓口で対応できる相談の内容も分かるようにした方がよい。
- ・用語集で CIO・CDO が載っているが、CDO はチーフ・データ・オフィサーの略称でもある。本編の中でチーフ・デジタル・オフィサーが出ているからだとは思いますが、デジタル庁の中にはチーフ・データ・オフィサーを配置するという話も聞こえてくるので、については、なお書きで、チーフ・データ・オフィサーについても説明を掲載したほうがよい。
- ・用語集でオプトインがあるならオプトアウトについても書いたほうがよい。

(ガイドブックの今後について)

- ・このガイドブックの運用方法や体制は今後重要である。ガイドブックを作って、それを読んで地方自治体やエリアマネジメント組織の方で自由にやってくださいと言って放り投げるものではない。
- ・今後の取り組みは重要。30 年ほど前、インテリジェントビル政策等を推進した場合には、低利融資、固定資産税軽減、加速度償却等、バトンを民間に渡していく政策ツールがあった。一方、スマートシティは取組が広範に広がっているため、当時ほど民間の自力展開へ繋ぐバトンの形がはっきりと見えない。プラットフォームの運営主体やガイドブックのアップデートの責任の持ち方などに工夫がいると考える。
- ・なるべく早くガイドブックを公表して、実際の現場で回して、改定が必要なところは改定していくというほうがよい。本日の委員の意見は反映するという事務局の回答もあったので、ガイドブックの最終案は自分と事務局に一任してほしい。
- ・改定については、バージョン 2 ではなく、バージョン 1.1、1.2 というように小刻みに変え

ていけばよい。ガイドブックを踏まえて実施された活動を踏まえて、ベストプラクティスを入れ込んでいくことも想定される。

- ・ 資金的持続性については、皆でエコシステムをつくっていく空気が重要。これから煮詰めていくところで、現時点でビジネスモデルがあるわけではない。スマートシティで完結しない資金調達も考えていく必要があり、今後もチェックしていき、長期間のスパンでアップデートしていくことがよい。
- ・ ガイドブックを出したままにしないことが重要。MaaS のデータ連携ガイドラインも、コロナ禍を踏まえて ver2.0 への改訂を行った。ガイドブックを強化していく取組が重要
- ・ 次年度の取組として期待することとして、取組の評価についてである。こういったことを目標として頑張ればいいのかということが自治体や関係者の中で納得できるようになるよう、取り組まれた内容や、どう汗をかいているか、よかったポイントを整理できるとよい。
- ・ ガイドブックは使われないと意味がない。そのためには、市民に近いところまで幅広くガイドブックの存在を周知することが必要である。スマートシティ・インスティテュートでもウェビナー等を実施しており、情報発信の場として活用することも検討してはどうか。
- ・ 日本のスマートシティについて、海外から情報提供の依頼を受けることがある。どこかのタイミングで英訳も検討したほうがよい。日本の持っているノウハウを発信できると、海外からもいろんなノウハウが入ってくると考える。

以 上